

## 教育相談の用語

教育センター

### カウンセリング マインドとは

カウンセリングの基本精神あるいはカウンセラーの基本的姿勢や態度のことである。教育相談においては、一人一人の子どもを尊重、理解し子どもとの信頼関係を基盤として、子どもの可能性を引き出し、子どもの人格的な発達を援助していくとする教師の心がまえである。

### 受容とは

相手を、そのままの姿において、素直に認め、無条件に受け入れることである。

相談場面においては、非審判的、許容的な態度で子どもと接することがまず大切であり、子どもの気持ちに共感してうなずいたりしながら、子どもの話を傾聴することが望まれる。

このような受容的対応のなかで、子どもは心を開き、自己を語るようになるのである。

### 共感的理解とは

相手の心にある様々な感情を相手の立場に立って理解し、それをあたかも自分のものであるかのように共有することである。

相談場面で共感的理解がなされると、子どもは自分の気持ちが分かってもらえたと感じ、気持ちが安定し、教師に対する信頼感をいだくようになる。そして、自分自身や相手を素直に見つめられるようになり、やがて「自己成長」に向けての大きな力となるのである。

### 教育相談とは

一人一人の子どもの教育上の諸問題について、本人又はその親、教師などに、望ましい在り方について助言指導することであり、より個別的な指導援助である。

指導には、子どもの人格や精神的健康をより望ましい方向に推しすすめる指導と問題行動を持つ子どもに対する指導とがある。

現在、教育相談はたいへん重要視されている。

### 問題行動とは

子どもの場合、「教育的立場から特に指導が必要であると判断される行為や行動」であり、反社会的行動と非社会的行動とに大別される。

その指導援助にあたって大切なことは、問題行動の根源となっている「不安」を解消することである。

また、「問題行動は心の訴えである」ととらえて、子どもの気持ちに添って対応することが重要である。

### 不登校（登校拒否）とは

子どもが何らかの心理的要因によって登校できない、あるいはしない様態のことである。

その指導援助にあたっては、特に心理的側面へのアプローチを重視する必要があり、怠学として対応したり、無理な登校を促したりせず、子どもや家族との信頼関係を築きながら、子どもに応じた計画的・組織的な指導援助が大切である。